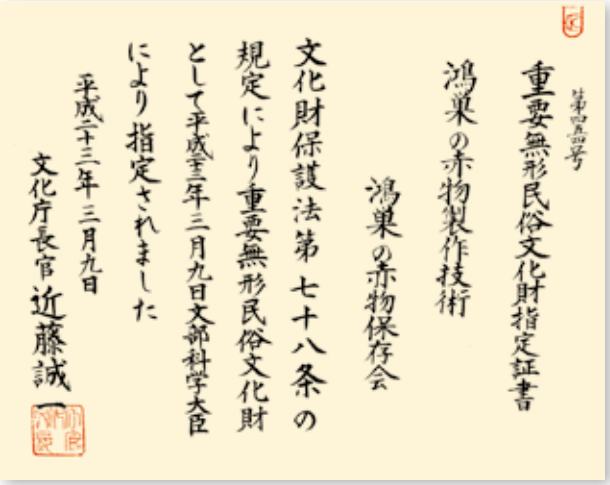

第四五号
重要無形民俗文化財指定証書
鴻巣の赤物製作技術
鴻巣の赤物保存会
文化財保護法第七十八条の
規定により重要無形民俗文化財
として平成三年三月九日文部科学大臣
により指定されました
平成二十三年三月九日
文化庁長官 近藤誠一

重要無形民俗文化財の技術

歴史的価値のある郷土工芸品である赤物。その制作技術は国指定の文化財です。赤物のほかに、鴻巣市内にある国指定文化財は生出塚埴輪窯跡出土品（70点）と合わせて2件あります。

高い技術で作られた工芸品でありながら、どこかユーモラスな赤物。
干支や縁起物などモチーフもさまざまあるので、きっとお気に入りが見つかるはずです。

赤物 コレクション

「赤犬」は「安産・多産」の象徴であり、魔除けや無病息災の縁起物。「海老」は「腰が曲がる年まで長生きできるように」という願いが込められた縁起物。その他、元気な子どもが熊に乗る「熊金」、学問の神様である菅原道真公の「天神」などがあります。

キリ（桐）のいろいろ

赤物は、キリ（桐）の木材を加工する過程で生じた木屑を固めて作ることは紹介した通りである。キリと聞くと、箪笥や下駄を思い浮かべる人も多いだろう。このキリ、知れば知るほど謎がある樹木でもある。このコラムでは、そんなキリのいろいろについて紹介したい。

1. キリの意味

キリの語源については、江戸時代の本草学者・儒学者の貝原益軒（1630-1714）が、著書「大和本草」の中で、「切れば早く長ず、故にキリという」と記している。漢字の「桐」は、「木目がまっすぐ通っている木」の意味の「通（トウ）」を語源とする説や、「中に空洞のある木」という意味とする説などがある。

キリの写真　上：樹型、下左：花、下右：葉と実

2. キリの学名　ーシーボルトとツュンベルクー

キリは、キリ科キリ属に属する落葉高木である（昔はゴマノハグサ科に入れられていたが、DNAを用いた最新の分類研究でキリ科として独立した）。学名は、*Paulownia tomentosa*（Thunb.）Steud（，パウロウニア・トメントサ）である。「*Paulownia*」が属名、「*tomentosa*」が種小名、「(Thunb.)Steud.」は命名者である。人に置き換えて、属名を苗字、種小名を名前と思うと分かりやすいだろう。

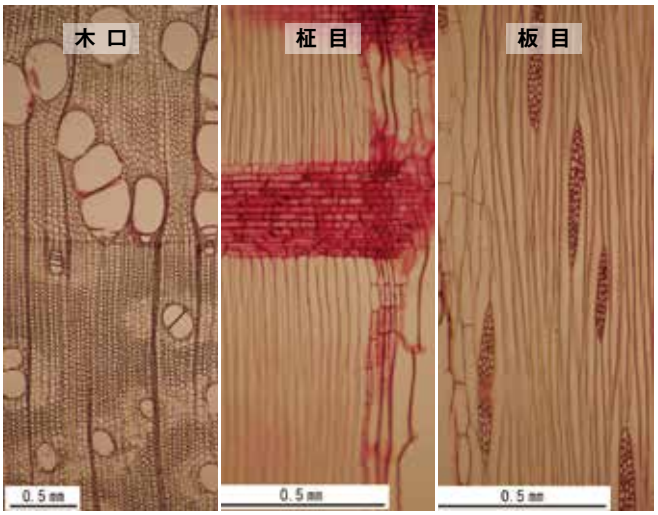
キリの属名である「*Paulownia*」は、歴史の教科書でもお馴染みのフィリップ・フランツ・バルタザール・フォン・シーボルト（Philipp Franz Balthasar von Siebold）が日本で収集した標本を基に発表した『日本植物誌』（1835年）で新たに命名した。属名は、当時のオランダ王妃であるアンナ・パヴロヴナ（Anna Paulowna）に献名したものである。一方、種小名の「*tomentosa*」は密な綿毛のあるという意味であり、キリの葉にビロードのような毛が密生していることに由来する。

命名者のうち（Thunb.）」は、スウェーデンの植物学者であるカール・ペーテル・ツュンベルク（Carl Peter Thunberg）を示す略称である。ツュンベルクは植物分類学の基礎を築いたリンネの弟子であり、分類学に大きな功績を残した。実はシーボルトよりも早く、1775年～1776年に長崎・出島の医師として来日しており、日本で集めた植物標本を基に『日本植物誌』（1783年）を発表している。「Steud.」は、ドイツの植物学者である、エルンスト・ゴットリープ・フォン・ストイデル（Ernst Gottlieb von Steudel）を示す略号である。命名された植物の種名を網羅・整理する等の業績がある。

実は、キリの命名者がシーボルトではなく、ツュンベルクになっているのには少し複雑な経緯がある。シーボルトがキリを命名した時、彼は種小名に「*imperialis*」を当てたが、実はそれよりも早く、ツュンベルクもノウゼンカズラ科ツリガネカズラ属の植物として、キリに「*Bignonia tomentosa*」といる学名を与えていた。これが後の学名の命名規約に合致せず、属名はシーボルトの「*Paulownia*」が採用されたが、種小名は先に命名していたツュンベルクの「*tomentosa*」が採用されることになった。

3. 桐の材質

キリの木材は気乾比重（木材の重さや強度を示す基準の一つ。木材を乾燥させた際の重さと同じ体積の水の重さを比べた値で、水の重さを1.0とした場合の重さを示し、数値が大きいほど重い）が0.30程度とされる。これは、針葉樹で最も軽い部類に入るメタセコイアと同程度で、広葉樹ではバルサ（気乾比重0.17）に次いで軽い木材とされる。軽いために加工は容易な部類に入る。一方で、比重が軽いということは木材中の空壁率が高いということを意味し、それによって熱の伝導率が低いとされている。



キリの木材組織。赤い部分は組織細胞、白抜き部分が空壁。